

## 平成13年度全国中学生人権作文コンテスト入賞作品

## 「父の話とわたしの思うこと」

熊野中学校 竹嶋 紗 耶

私の父は、「共に生きる」、「共生」ということばをよく言います。地域の中でいろいろな人がお互いを尊重しながら、安心して生活できる環境をつくらないといけないと言っています。父の話は難しく私にはよくわかりません。

父は養護学校につとめています。障害をもっている人のことをよく話します。

この間、父に電話がありました。長い電話でした。悩み相談の電話のようでした。「なんで親は悩まんといけんのかの。なんで障害者は地域で生きれんのか。なんで障害者を地域は排除するんか。これが障害者差別というもんよ。それはわたらの問題で。わたしが障害者を地域から排除しとるんよ。そんな構造を

でも相談にのりました。

わたしが認めとるんよ。くやしいの。わしが死ぬまでには絶対変えちやる。」と父は腹を立てたような言い方をしていました。たぶん差別のことに腹を立てているんだな、と思いました。私も差別には腹が立ちます。私は差別されたくないです。人を差別したくありません。

私は友達を大事にします。その友達が他の人からいいように見られてなくても、私は友達とつきあっています。「人の行動には理由がある。その理由を考える。まわりの者が友達のことを悪く言っても、お前までが同じように考えるな。お前が友達だと思ったら、大事な友達なんよ。」と父は言います。私もそう思います。友達がこまっつれば家に帰る時間がおそくなっ

考えているつもりです。難しいことだけど、まじめに考え

遅く帰ったら、おこられました。でも理由を言うとお親は納得してくれましたが、やっぱりおこられました。「親は心配しとる。なんで連絡せんかったか。友達の親も同じじゃ。」と。それもそうだなと思いい反省しました。友達を大切にすることばかり考えていて、友達の親の気持ちを考えていなかっただことを親から強く言われたように思いました。私は何も言えませんでした。

父は私の横にすわって、部落差別や障害者差別のことを言いました。私には父の言うことの全部はわかりません。でも部落差別や障害者差別のことは許せないことなんだということはよくわかります。母は「そんな話は難しいよ。紗耶にはしんどいよ。」と父に言っていました。父は「しんどいことだろうが、きちつときかんといかん。」と言います。私は私なりに聞いて、

おしえて！

## くわしい年金知識Q&amp;A (34)

Q 退職して保険料の支払が難しいのですが、何かよい方法があれば教えてください。

A 思いがけない病気やけが、失業、営業不振などの理由で保険料を納めたくても納められないときは、免除制度を利用してください。免除申請には、全額免除と半額免除があります。どちらの免除も申請が必要です。

年金手帳・印鑑・失業の場合は失業したことが確認できる、雇用保険受給資格者証や雇用保険被保険者離職票などの、公的機関の証明書の写しを添付して申請してください。



(住民課同和対策室)

TEL 820-5604

## 問合せ先

住民課保険年金係

TEL 820-5604